

舟遊びをするとか。

栗林公園が悪るとか、六高の學生が主催なので其の中の反齒の一人が、「僕は醫科ですから、今にあなたの病氣を癒して上げますよ」とか言つた。

新吉は別府から國へ歸る事にした。

「岡山で降りて一緒に演説をやつては都合が悪い、解散や中止になると不可ないから、君も疲れてゐるから」

加藤一夫が言つた。

岡山まで二等だつたが、下關までの三等の切符を車掌に言つて汽車中に買つて鉛筆入を福山から貰つたりした。

岡山へ着いた。新吉は三等室に乗り換へした。

新居丈は居なくて、尾瀬も佐野も福田もみんな降りた。

一夫は新吉の手を痛い程握つて上下に振つた。

ダマダマダマダマイスト。